

2012 くすのき

VOL.23

樟 樹

樟樹会 新居浜西島高等学校同窓会

校内こんなところ(こと)ご存知ですか?

● 第12回 ●

『今週の言葉』—Only・Oneの言葉を見つけよう

♪ 今日は今週の言葉を紹介します。このコーナーは、先生方が心に残った言葉や、自分のお気に入りの言葉を紹介するコーナーで、……♪

週の始め、放送部が美しいアナウンスとともに、様々なエピソードを交え紹介する「今週の言葉」。各HR教室にも解説付きのプリントが毎週配られており「今週はどんな言葉が出てくるのだろう」と気にかけている生徒も多いと思います。ところでこの「今週の言葉」がHR教室以外で掲示されている場所をご存知でしょうか?

正門を左折し、直進すると正面(東門横)にガラス張りの大きな立体掲示板があります。この掲示板には行事予定や「くすの葉便り」、また人権啓発ポスターなどが掲示されていますが、「今週の言葉」もこの掲示板左面にプリントアウトされて掲示されています。昔はチョークで直接言葉を書いていたようですが、現在は真っ白な用紙に黒字で印字されたものを貼っており、非常に見やすく、目立っており、保護者や来校した方々などにも好評をいただいております。

「今週の言葉」は長い間、休止していましたが、生徒諸君に言葉のもつ「力」をもっと知ってほしいという理由から昨年、復活しました。「心が変われば態度が変わる、態度が変われば行動が変わる、行動が変われば・・・」という有名な

言葉がありますが、いきなり「心を変える」のはハードルが高く、とても難しいことです。そう、「心を変える」ためには何らかの「きっかけ」が必要なのです。生徒たちがいろいろな人の、いろいろな言葉に出逢い、その中でOnly・Oneの言葉を見つけ、人として成長していくことを願っています。

(浅田武裕教諭 記)

正門横のフェンスが 新しくなりました

正門横のフェンスが今年三月の卒業式間際にリニューアル。卒業生たちの輝かしい門出を椿寒桜と共に見送りました。

ブロック塀からフェンスになり、見通しは良好。登下校も安全になりました。

フェンスの前の左右の樟が夏の日差しをたっぷり受けてのびやかに枝葉を広げ、風に揺らんでいます。



2012年版「会員名簿」発行のお礼

会長あいさつ



樟樹会会長
畑田 雅敏
(昭和44年卒)

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご賛同ご協力いただき誠に有難うございます。

さて、愛媛県立新居浜西高等学校は、大正6年5月3日、新居浜実科女学校として開校して以来、平成24年5月3日をもって創立95周年を迎えることになりました。

この間、時代の流れにより幾多の変遷を経て、昭和24年9月愛媛県立新居浜西高等学校となり今日に至りました。母校は、大正・昭和・平成の三代にわたり、愛媛県における教育の向上に多大の貢献をし、戦後の学制改革後はその輝かしい歴史と伝統をさらに発展させ、現在では運動部・文化部の華々しい活躍と進学における県下屈指の優秀校として知れわたっております。

とは、誠に喜ばしい状況であります。また、この素晴らしい自由と活力にあふれた母校に学び、育っていった卒業生は32,000人を超え、国内はもとより広く海外に雄飛し、各界で活躍いたしております。

幸い、県並びに県教育委員会のご高配と同窓会会員・PTA各位・地域有志の絶大なご協力・ご支援により、現在のよう

素晴らし
い教育環
境が整備さ
れて参りましたこと
はご同慶の至りでございます。

さて、平成29年には記念すべき母校創立100周年を迎えます。その為にも大切な新しい会員名簿(2012年版)がこの度刊行いたしました。名簿刊行におきましては今回も名簿作製業者サラトを通じて個人情報保護法に則り、会員個々の意思を反映させながら作成いたしました。製作に携わっていた各支部・役員・理事・各学年幹事の皆さんのご



理解ご協力に深く感謝申し上げます。そして、賛助広告並びに賛助金のご協力をいただきました方々に紙面をお借りしてではございますが、合わせてお礼申し上げます。有難うございました。待望の100周年には、築後50年を経過した校舎の建て替えを含めさまざまな計画もあるようです。周年事業には、皆様のご理解を得て進めてまいり所存でございます。各支部を通じて皆さんのご意見を反映させていただければと存じます。今後ともこれまで同様のご支援をお願い申し上げます。

尚、待望の2012年樟樹会総会・懇親会は、8月4日土曜日にリーガ新居浜にて開催いたします。昨年同様OB・OGの方々のご参加をお待ちしております。お元気なお顔をお見せいただき、名簿や来る創立100周年などの話題に花を咲かせていただければ、同窓会としてこの上ない喜びでございます。

本年も皆様方がお元気でご活躍されます事を祈念申し上げます。同窓会会長としてのご挨拶とさせていただきます。

生 介

にわたり活躍されている
するコーナーです

Profile

昭和57年 新居浜西高等学校普通科卒業
昭和61年 東京大学法学部公法学科卒業
衆議院法制局に入る
第五部第一課長、憲法審査会事務局総務課長、法制企画調整部副部長、企画調整監等を経て
平成23年 衆議院法制局第五部長（現職）
東京大学法科大学院非常勤講師（現職）
平成24年 東京大学公共政策大学院客員教授（現職）



塩田 智明

しおた ともあき

航 跡

私は、中萩の市営住宅の育ちである。子どもの頃、周囲の大人は、新居浜の繁華街に行くことを「町に下りていく」と言っていた。私を連れて行くときは、決まっていた。私を連れて行くときは、決まっていた。そりぎの服を着せた。別子大丸はきらびやかな別世界で、昭和通りあたりのにぎわいはたとえようもなかった。しかし、幼い私は、中萩の家の庭から四国の山並みを見る方が好きだった。

東大法学部では、司法試験を目指す同級生と自分との間に大きな差があるのを思い知らされた。それでも、法学の素養を少しでも生かすことができ、できれば東京ですと過ごせるような職場を探し、衆議院法制局に就職することを決めた。

衆議院法制局は、衆議院議員の議員立法を補佐する機関である。私が入った頃は、議員立法といってもピンとくる人はまだまだ少なかった。ところが、衆議院選挙に小選挙区比例代表並立制が実施された90年代後半から、政治主導の時代、政策競争の時代ということが声高に言われ始めた。時あたかも情報技術の進展に伴う議院法制局の立案能力の向上とあいまって、議員立法が

にわかに脚光を浴び始めた。さらに政権交代、衆参ねじれ国会の現出などが追い風となつて、今や1会期における議員立法の成立率が内閣立法のそれを上回ることにすらあつて、注目されている。

そんな中、在職25年を迎えた私の実務経験を見込んで、東大で立法学を教えてみないかという話が舞い込んできた。私のような者の話に興味を持つ学生がいるのかと思つたが、ふたを開けてみてびっくり、毎回70人を超える学生が詰めかける授業になつている。対話を交えた双方向的授業は、学生アンケートの結果を見ても満足度が高いようだ。

現在私は、東予育英会の理事や西高の関東地区同窓会である東日本樟樹会の幹事も務めている。これまでの人生航路において、恩義を蒙った方々へのせめてものお礼だ。西高生諸君には、もつと東京に進学してほしい、（男子限定だが）東予学舎に入り、東日本樟樹会にも顔を見せてほしい。

西高に入学する少し前頃から、構造不況の荒波が新居浜を覆った。工場労働者の父の表情がどんどん暗くなり、中心街の活気も急速に失われていった。鬱屈した気分の中で、漠然と、将来は新居浜を離れて遠くに住みたいと思つていた。そんなとき、家庭訪問にいられた一年担任の塚田平先生（英語）が「君、この成績を続けたら、東大に行けるぞ、ウン」とおっしゃった。母も私もあつけにとられた。それまで、東大に進むなど考えたこともなかったからだ。

半信半疑ながら、勉強に本腰を入れることとした。勢いに任せて、文科一類を受験し、運良く現役合格した。家族との別れもそこそこに上京、東予育英会が運営する学生寮東予学舎に身を寄せた。ここで尊敬する先輩に出会い、大学の勉強に勝るとも劣らない社会勉強をした。

東大の客員教授になったとき、私は、中萩小・中、西高、そして学部こそ違え卒業大学も同じである1年先輩で東大の能智正博教授（昭和56年卒）にご挨拶をした。そのとき、能智教授は、同じ職場（大学院教育学研究科）に星加良司専任講師（平成6年卒）と村上祐介准教授（平成7年卒）という西高出身の教員がいると明かされた。しかも村上准教授は、中萩出身という。私を入れれば、中萩出身の西高卒業生が3人も、東大で教鞭をとっていることになる。

この話を聞いたとき、私は、子どもの頃飽きずに見た、たおやかな四国の山並みを思い出した。あの山々に見守られ巣立った者の航跡が、こんなふうに交錯するとは…。なぜだか実に愉快な気がした。

同窓

文化面、産業界など各界

同窓生をご紹介します

紹介

映画と共に歩む道

映画評論家という肩書で今春から愛媛新聞文化面にコラムを執筆していることから同窓会より寄稿を依頼された。肩書きの奇抜さゆえだと思うが、主な収入は、週7コマ、3つの大学で英語と比較文化論を担当する非常勤講師の職から得ている。そのため学期中は試写に通えない。それで映画評論家を名乗るのは面はゆいが、これまでの自分の人生と映画の関わりを考えると、許されるかな（誰に？映画の神様に！）と思つている。実際、映画について書くことは自分の使命と考えているのだ。まったく売れてはいないが本も3冊上梓している。

初の書きおろしは『映画に学ぶ英語―台詞のある風景』（東洋書店、2009年）。数か月、映画のことだけを考え書き上げた。

2冊目は、40才を超えて東大大学院に社会人入学し書き上げた博士論文をもとにした『ジェンダーの比較映画史―「国家の物語」から「ディアスポラの物語」へ』（彩流社、2010年）。同書が、修士以来在籍した東大比較文学比較文化研究室出身の若手研究者に与えられる島田謙二記念学藝賞の候補と翌年1月に指導教官から聞かされ、おめでとうございますとまで言われたが、自分から年齢規定のことを言いだしたのが藪蛇となり、結局、2月に落選の知らせをうけた。遠回りせざるをえなかった人生ま

で否定されたようで、落ち込みかけたが、私の人生をはかれるのは私だけだと思ひ直し、震災直前、同書を刊行した時にお世話になった編集者に企画を持ちかけ、震災後の夏に『映画みたいに暮らしたい―エッセ・シネマトグラフィック・フェミナン』（彩流社、2012年）を出した。東北を襲った悲劇で紙もインクも足りなくなった中、申し訳ないとは思ったが、30代から40代にかけての子育て期に時間をひねり出しながら静岡新聞や週刊金曜日を書いてきたもので、愛着はひとしおだ。書き直しの作業を通して、人生を生き直すこともできた。カヴァーには、ゴダール映画『女と男のいる舗道』のアンナ・カリーナが不良っぽい感じで路上に立っている。オン・ザ・ロードの精神だけは忘れない。そして道は進むためにあるのだ。

すると、直後に次の道がみえてきた。本をお送りした縁で、上野千鶴子さんよりお声がかかり、女性総合情報サイト、ウイメンズ・アクション・ネットワーク (<http://wan.or.jp>)の映画欄を担当することになったのだ。以来、この1年、「映画と女性と社会をつなぐ」をモットーに、フェミニスト的観点から世界の映画のヒロイン像にスポットをあててきた。人生にはいくつもターニング・ポイントがあり、その都度選択を迫られるが、私の

場合、西高3年次に、アメリカ留学を決めたのが最初の大きな選択だった。ある時、教室の後ろにロータリー財団留学生募集と書かれた紙が貼り出されたのに目をとめ、「アメリカに行きたい」と強く思ったのだ。1974年、アメリカがベトナム戦争から撤退した翌年のことだった。それがどれほど大きな意味を持つていたかを知ったのは、四半世紀後、前述の『ジェンダーの比較映画史』のあとがきを書いている頃だった。

第2の選択は、東京外国語大学英米科を卒業し就職した日米文化交流団体の草分け財団国際文化会館企画部に就職したこと。ここで映画研究者ドナルド・リチャー氏と出会い、日米合作映画MISHIMAのポール・シュレイダー監督に紹介され、秘書となった。それが次の選択につながった。現場の厳しさを知り、より深く究めねば生き残れないと痛感し、留学する夫と共に、パリに向かったのだ。2年間、パリで映画館巡りをしながらノートをつけたことが今の仕事の下地となった。身重の体でタイプをうち修士号もとった。

映画と人生に引き裂かれ、挫折することが多かったが、その都度、「書く」ことをとおして立ち直ることができた。これからも書き続けるつもりだ。在校生の皆さんも、しぶとく自分の道を歩んでください。

Profile

昭和51年 新居浜西高等学校普通科卒業
東京外国語大学外国語学部英米科入学
昭和55年 東京外国語大学外国語学部英米科卒業
(財)国際文化会館企画部就職
昭和58-59年 日米合作映画MISHIMA監督秘書
昭和59-61年 パリ留学
昭和61年 パリ第三大学修士課程修了
平成10年 東京大学大学院総合文化研究科修士課程入学
平成20年 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了
東京大学大学院総合文化研究科学術研究員
(~21年)
現在 慶應義塾大学・青山学院大学・和洋女子大学
非常勤講師(英語・比較文化論)
NPO法人ウィメンズ・アクション・ネットワーク
映画・演劇欄コーディネーター



川口(白石)恵子

かわぐち(しらいし)けいこ

の 歩 み

お世話になった 全ての人に恩返し

定時制バドミントン部 部長 吉村 龍人



私たちは定時制バドミントン部は、昨年8月、神奈川県で行われた全国定時制通信制バドミントン大会に、県予選を勝ち抜いた男女合わせて7名が出場しました。試合の結果は次の通りです。

男子団体 一回戦3-0 沖縄

二回戦0-3 東京

女子団体 一回戦1-2 北海道

男子シングルス

ベスト16 松本魁斗

ベスト8 吉村龍人

女子シングルス

一回戦敗退

結果を見て、よく頑張ったとほめてくれる人もいますが、私たちはこの結果に満足していません。全国の壁は厚く、なかなか上位入賞は難しいのですが、夢は大きく全国制覇！これを目標に毎日練習に励んでいます。練習内容はみんなが相談しながら決めていますが、最大の悩みは、学校での練習時間が短いことです。定時制の授業は5時45分から始まり9時5分に終わります。10時には完全下校なので、実質40分しか練習できません。土日や休日は練習がないので、とにかく練習の質を高めるように意識しています。

しかし、学校での練習だけではあまり緊張感がなく、十分な成果は期待できません。そこで、ときどき校外で行われている試合に出場したり、クラブチームの練習会に参加したりして、練習の起爆剤

にしています。学校とは違った環境で、自分たちよりもレベルの高い人たちとゲームをすると、緊張感があり、普段の練習では見えてこない自分たちの未熟さや欠点に気づくことができます。そして、気づいたことを一つ二つ改善していくことで、技術的にも精神的にも成長することができます。

ところで、皆さんは「定時制」と聞いてどんなイメージを持っていますか。割と知らない人が多いので、この場を借りて簡単に紹介したいと思います。西高の定時制は単位制で、はじめに授業を受けて努力すれば、4年で卒業できます。学校外の単位も取れるので、3年で卒業する生徒もいます。いろいろな事情で全日制に行けなかったり、中学のときに不登校であったり、全日制の学校に通っていたけれど、環境になじめなくて辛い思いをしたり、様々な境遇の生徒がいます。私の場合は、全日制の学校になじめず、その学校をやめたときに西高の定時制と出会いました。正直ここに入学して、人生が180度変わりました。

た。ここにはいろいろな年齢の人との交流があり、上下関係はありません。困ったときはみんなが助け合えるすばらしい場所です。バドミントン部の部員の多くは、アルバイトを

しながら部活動に打ち込んでいます。ときには仕事と部活動の両立が難しく辛いこともあります。そんなときはみんなで支え合って、乗り切ってきました。今は全国制覇という一つの目標に向かって、一丸となって練習に向かっています。

最後に、私は今年で、今年が最後の全国大会になります。他の部員は6月に県予選があります。私が、私は昨年の全国大会でベスト8に入ったので、県の推薦枠で全国大会出場が決まっています。定時制での4年間で、いろいろなことがありました。ときにはスランプに陥って、もうバドミントンをやめようかと思った時期もありました。しかし、そんな自分がここまでバドミントンに打ち込めたのは、家族や先生、友人など自分と関わってくれている全ての人のおかげだと思っています。お世話になった全ての人に恩返しができるように、高校生活最後の全国大会をみんなと楽しんで、笑顔で締めくくります。



部活動

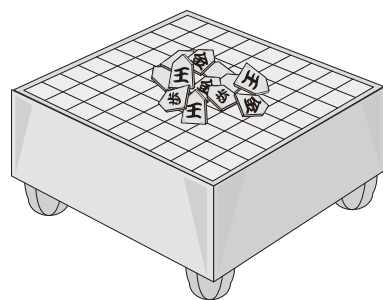


棋道部は燃えている —全国大会を目指して—

棋道部 副部長 吉本 明香里

私たち棋道部は、第2教棟3階棋道部室で日々将棋に励んでいます。今回は、あまり知られていないであろう私たちの活動について紹介したいと思います。まずは活動日時についてです。私たちは主に週に2回、月曜日と木曜日を中心に活動しています。この日は6時間なので、長い時間じっくりと対局に臨めるのです。大会前になると毎日部活をすることで、自主的に自らの棋力の向上に努めています。

次に活動内容についてです。授業が終わると、まず上級生が顧問の塩崎先生のとこに部室の鍵を取りに行き、部室を開けます。そのころには部員が部室の前に来ており、部室が開くと荷物を降ろして各々活動を始めます。主な活動としては、まず詰め将棋というものを行います。これはウォーミングアップのようなもので、部活前には各自で行い、頭の準備運動をするのです。しかしこれはただ準備運動としてやっているのではなく、対局において最も重要な場面、つまり勝負の決まる場面である『終盤』において発揮される力『終盤力』を鍛えるためでもあるのです。この終盤力があれば、不利な状況から逆転することも可能であり、事実私も「詰め将棋をしていてよかったです」と思えることが何度もありました。そして、詰め将棋が



終わると次は戦術の研究をします。具体的にどのようなことをするかというと、本を読んだり、部員同士で対局しながら戦術を磨いたり、とても様々です。私自身はよく本を読むのですが、色々な戦いの形を学ぶことができるのでとても楽しいと思っています。そしてこの戦術研究が一通り終わると、いよいよ対局を行います。この日やった詰め将棋や戦術研究を活かし、自らに定着させるためです。誰と誰がするのかはじゃんけんで適当に決めます。人数が奇数のときは誰か強い人(主に上級生)が1年生などを2人同時に相手したりもします。対局は時間を決めて行うためチェスクロックを使います。お互いの持ち時間は15分、この時間の中で考え指さなければいけないのです。こういった時間配分を考えるのも将棋の魅力の一つです。

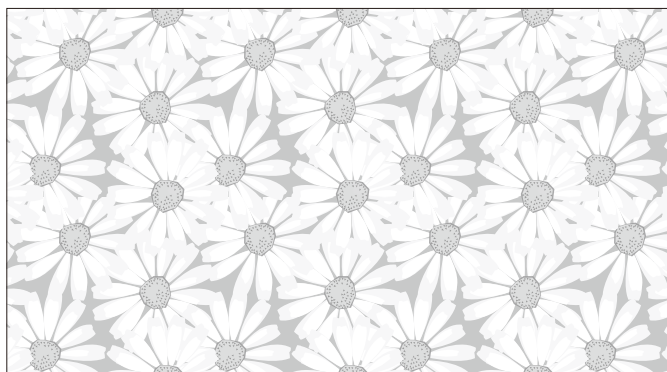
そうして、対局が終わった後は検討の時間になります。お互いの良かった部分悪かった部分を指摘し合い今後に生かしていくため、この検討も時間をかけしっかりと行っています。

このようにして私たちは活動しているのですが、そのおかげで大会で結果を残すことができました。今年の高文祭では、男子はベスト8が4人、ベスト16が2人で、女子は第3位と第5位を取ることができました。しかし、今年是全国大会へ出場することはできませんでした。

私たちの目標は全国大会へ行き、結果を残すことです。過去にも全国で活躍した先輩方がいました。そんな伝統をもった棋道部を、私たちの代で廃らせることはできません。そのためにも、私たちは将棋、学校生活ともに真摯に取り組んでいきたいと思っています。プロ棋士である谷川浩司九段はこんな言葉を残しています。

「勝負の世界に偶然はありません。一夜漬けは通用しない。毎日毎日の積み重ねがすべてなんです。」

この言葉を胸に日々精進していきたいと思えます。今後とも、西高棋道部の応援よろしくお願ひいたします。



母校の概況

Nihama-Nishi High School

地域や同窓生の熱い思いに支えられて



校長 藤田 繁 治

樟樹会の皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は母校新居浜西高等学校の教育活動全般に対し、物心両面の御支援を賜っておりますことに心より厚く御礼申し上げます。

私は本年度の人事異動により、伯方高等学校から転任して参りました。私事ながら出身は地元新居浜市の船木であり、昭和49年全日制普通科卒業の本校同窓生でもあります。この度母校で勤務す

る機会を得たことを大変うれしくまた光栄に思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本校では重点努力目標に「魅力ある進学校を目指して」と謳っております。ここでいう魅力ある進学校とは、合目的に見て第一に「生徒が行きたいと思う大学に合格できる確かな学力が身に付く学校」でなければならぬと考えます。後のページにも示されたとおり今春は、国公立大学に141名が合格しております。数の上では例年と比較して課題も残りましたが、東京大学に現役で2名合格という実績は県下屈指の名門進学校としての面目躍如たるものでした。京大、阪大など難関大学へは18名が、早大・慶大には10名が、それぞれ合格するなど、保護者や地域の期待

に応える成果も見えております。

更には「生徒が学ぶ喜びを感じ、主体的に学習に取り組む学校」を目指します。本年度開催されたPTA総会には、大型連休最後の日曜日にも拘わらず、全員の半数近くの400名を越える保護者に参加いただきました。改めて保護者が本校に寄せる期待の大きさというものを実感しております。

ところで、着任早々の4月中旬、市内に住む一人の御婦人から、本校生徒の通学状況について苦情をいただきました。早速集会で全校生徒に状況を説明し、指導したところ、当該生徒が自分から申し出てきました。地域の方から指摘を受けたことは残念ではありましたが、自分の行為が学校への評価を害したこと

を恥じるという潔さがうれしく、生徒の中に西高生としての矜持というものが育っているように思いました。

部活動においても、本年度169名が県総体への出場を果たしております。東予地区予選の表彰伝達場において、8つの部23枚の賞状を顕彰しました。高校生活における部活動の重要性を思うと共に、生徒の活動全般に旺盛な活力を感じている次第です。

これから、伝統ある母校新居浜西高等学校のため、地域や同窓生の皆様の熱い思いに支えられて魅力ある学校づくりに努めたいと決意しております。どうか一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



▼教職員の異動

《転入》

校長 藤田 繁治 (伯方)
 教頭 藤田 正司 (新居浜工業)
 教頭 佐々木利夫 (川之江)
 事務長 河野 良彦 (新居浜東)
 国語 岡本 慎弥 (西条)
 国語 岡本 一孝 (新規採用)
 数学 高須賀幸男 (三島)
 数学 村上 貴彦 (松山東)
 保体 高橋 正治 (三島)
 英語 鈴木 齋 (西条)
 英語 松本恵理子 (今治南)
 英語 曾我部千歳 (新居浜南)
 事務 広川 佳代 (西条)

《転出》

校長 横山 忠正 (退職)
 教頭 岡田 利文 (退職)
 教頭 中田 潔 (川之江)
 事務長 小山 恒和 (退職)
 国語 山本 健司 (川之江)
 国語 菅 伸明 (新居浜南)
 数学 下司 資示 (三島)
 数学 松田 智也 (松山東)
 数学 川口 靖史 (小松)
 保体 西崎 祐輔 (松山盲)
 英語 月原まるみ (退職)
 英語 越智美智子 (退職)
 英語 寺井 美保 (西条農業)
 英語 樋田智恵子 (西条)
 英語 森井夕季絵 (川之江)
 実習助手 中野 静江 (退職)
 事務 森 明夫 (宮西小)

▼同窓生が母校の教壇に立つ

(氏名) (卒業年) (教科等)

塩崎 勇人 S46 地公
 石川美千子 S47 国語
 佐々木利夫 S48 教頭
 藤田 繁治 S49 校長
 鈴木 齋 S56 英語
 吉田 明正 S56 理科
 渡辺 一生 S56 数学
 浅田 武裕 S57 数学
 日野 右子 S59 英語
 五味むつみ S61 英語
 井川 美穂 S62 英語
 松長 健治 S62 数学
 塩崎 美都 S63 英語
 松本恵理子 H95 英語
 片岡 大介 H95 地公

(氏名) (卒業年) (教科等)

小池 佳子 H9 英語
 倉光久美子 H11 理科
 永易由希子 H11 英語
 下田 賢吾 H12 保体
 吉村 新平 H15 数学
 藤野 瞳 H20 事務



▼大学合格一覽

最近3カ年の総合合格者と、大学別合格者の一部を紹介しておきます。

	22年	23年	24年
国公立大	165	157	141
私立大	378	451	338

北海道大	1	0	1
東北大	0	2	1
東京大	0	0	2
名古屋大	2	1	0
京都大	4	4	2
大阪大	7	5	3
神戸大	4	5	4
岡山大	16	14	13
広島大	12	10	8
愛媛大	48	39	29
九州大	5	7	5

▼年間行事計画

月	日	行 事
4	9	全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式
5	6	P T A総会
	15	1学期中間考査 (～18日)
6	1	県総合体育大会 (～4日松山市周辺)
	21	西高祭
	28	1学期期末考査 (～7月4日)
7	20	1学期終業式
8	27	2学期始業式
9	2	定時制・通信制県総合体育大会
	6	運動会
	25	2年生2学期中間考査 (～28日)
10	1	2年生修学旅行 (～5日)
		1・3年生2学期中間考査 (～4日)
11	10	定時制運動会
	16	高校総合文化祭 (～18日松山市周辺)
	29	2学期期末考査 (～12月5日)
12	20	2学期終業式
1	7	3学期始業式
	19	大学入試センター試験 (～20日)
2	26	学年末考査 (～3月5日)
3	1	全日制卒業式
		定時制卒業式
	19	3学期終業式

新居浜市制施行75周年記念事業・日本のお手玉の会設立20周年記念
第17回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会

日程：記念講演会・シンポジウム・交流会 平成24年9月29日(土) 14:00～20:00
 競技大会 平成24年9月30日(日) 9:30～12:00(個人戦) 13:00～16:00(団体戦)
 場所：リーガロイヤルホテル新居浜

*記念講演会「ゲーム脳はお手玉で改善できる」講師 医学博士・日本大学大学院教授の森昭雄氏
 *シンポジウム「子どもの脳の発育と創造性の開発と『お手玉』」を6人の講師陣が語る
 *競技大会 小学生と一般に分かれて、投げ玉の技を競う
 問い合わせ：日本のお手玉の会 (0897) 32-0302





6月17日 四国高校選手権

陸上 男子3000M障害 **鈴木 洋平君 1位**

平成24年度愛媛県高等学校総合体育大会 結果一覧

6月1日から4日（水泳は6月15日・16日）にかけて、県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも177名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は下記の通り。

●陸上競技 男子

鈴木 洋平	5000m	4位	◎
	3000mSC	2位	◎
高橋 大地	やり投	2位	◎
	砲丸投	7位	
高橋 昇悟	やり投	6位	◎

●陸上競技 女子

加地はるか	5000m競歩	7位	
-------	---------	----	--

●バスケットボール 女子 (ベスト4 ◎)

団体	1回戦	新西 71-51	松南
	2回戦	新西 67-56	八幡浜
	準々決勝	新西 46-36	松北
	準決勝	新西 53-105	聖カタ

●バレーボール 男子

団体	1回戦	新西 1-2	今工
----	-----	--------	----

●バレーボール 女子

団体	1回戦	新西 1-2	松東
----	-----	--------	----

●バドミントン 男子 (団体3位 ◎)

団体	1回戦	新西 3-1	伊予農
	2回戦	新西 3-2	新工
	準々決勝	新西 3-2	松南
	準決勝	新西 0-3	新田

個人 玉井 1回戦

●バドミントン 女子 (団体準優勝 ◎)

団体	2回戦	新西 3-0	松山中央
	準々決勝	新西 3-0	松東
	準決勝	新西 3-0	松北
	決勝	新西 0-3	新田

ダブルス 大石・小野 2回戦

石丸・越智 2回戦

シングルス 越智・大石・石丸 2回戦

小野・岩崎 1回戦

●卓球 男子

団体	1回戦	新西 3-0	川之石
	2回戦	新西 1-3	帝京第五
ダブルス		稲見・鈴木	ベスト8 ◎
		片山・井川	2回戦
シングルス		稲見	ベスト8 ◎

●卓球 女子

団体	1回戦	新西 2-3	丹原
ダブルス		松木・田中	2回戦
		田中・津嶋	2回戦
シングルス		松木・田中	1回戦

●ソフトテニス 男子

団体	1回戦	新西 0-3	済美
個人		畑野・糸野	2回戦
		島田・曾我	2回戦

●ソフトテニス 女子

団体	1回戦	新西 2-1	大洲
	2回戦	新西 0-2	今北

●ハンドボール

団体	1回戦	新西 15-29	松東
----	-----	----------	----

●柔道

個人	妻鳥 壮佑	60kg級	2回戦
----	-------	-------	-----

●剣道 男子 (団体ベスト8)

団体	2回戦	新西 4-0	吉田
	3回戦	新西 3-1	今南
	4回戦	新西 0-3	宇東
個人		児玉 武留	ベスト16

●剣道 女子

団体	1回戦	新西 2-1	松商
	2回戦	新西 0-5	八幡浜
個人		上田亜希穂	2回戦
		久留島翔子	1回戦

●弓道 男子

団体	ベスト8
----	------

●弓道 女子

団体	予選敗退	
個人	松村 優里	予選敗退

●硬式テニス 男子

団体	1回戦	新西 3-0	今治明德
	2回戦	新西 0-3	新田
個人		伊藤 隼雄	ベスト16

●ダンス

5位

●新体操

西村 佑紀	個人総合	10位
	個人クラブ	13位
	個人リボン	11位
平井沙也香	個人クラブ	18位
	個人リボン	17位

●水泳 男子

越智 風太	400m自由形	4分57秒05
	1500m自由形	18分41秒16
高橋 昂平	100m平泳ぎ	1分18秒61
松本・浅田・畠沢・越智	400mリレー	4分41秒40
越智・高橋・畠沢・松本	400mメドレーリレー	5分12秒90

●水泳 女子

高橋万由花	200m個人メドレー	2分20秒79	(1位・県新) ◎
高橋万由花	400m個人メドレー	4分59秒32	(1位・県高校新) ◎

※ ◎印は四国総合体育大会出場

文化部 大会結果

●放送部

第51回愛媛県高等学校放送コンテスト			
アナウンス部門	宮川 萌	決勝進出	
朗読部門	土肥紗也	決勝進出	
テレビドキュメント部門	優秀賞「賞大夢」	全国大会出場	
	豊永風音・宮川 萌・城山友実・土肥紗也		

●書道部

第5回全国高等学校書道パフォーマンス甲子園	
出場決定(7月29日:川之江体育館)	
大西綾菜・本田 愛・宮下舞音・村上詩歩	
岡野紗弥・篠原俊介・寺岡奈穂子・真鍋郁美	
安藤咲笑香・鴻上奈月・福田 百・正岡真凜・森田 文	

新居浜の動き

新居浜市は今年で75周年です

昭和12年に新居浜町、金子村、高津村が合併し、新居浜市が誕生して75年を迎えました。

この記念すべき年に、将来都市像である「あかがねのまち、笑顔輝く 産業・環境共生都市」に沿った記念事業が開催されますので、主なものを紹介します。

ル研究会に無償譲渡されたことを受け、解体研究の前に4月27日から6月10日までの間、黒島埠頭で最後の一般公開がされました。

操舵室や甲板が写真展や昭和30年代の青森駅周辺のジオラマ展示、各種イベントが開催され、当初、3万人と見込まれていましたが6万2千人余りが見学されました。

歌劇「天空の町」〜別子銅山と伊庭貞剛〜

別子銅山の操業で発生した煙害で荒廃した別子の山の大造林計画を立て、植林事業に尽力した伊庭貞剛の偉業を伝える歌劇が5月26日・27日に開催されました。

県内外から招いたソリストと市民や子どもが参加した新居浜初の歌劇を多くの方が楽しめました。

ジブリの動画家 近藤勝也展

新居浜市出身で観光大使にも任命され、スタジオジブリで「魔女の宅急便」、「崖の上のポニョ」や昨年公開された「コクリコ坂から」などの作画監督や、キャラクターデザイナーを担当する実力派アニメーター近藤勝也氏の作品展が開催されます。「原画」などの作品展示のほか、ワークショップなども予定されています。

会期 7月20日から8月26日
場所 郷土美術館
観覧料 一般500円(中学生以下無料)

あかがね工業博2012

新居浜のものづくりの現状や歩みを情報発信することにより、ものづくりのまち、新居浜のさらなる発展を目指し、新居浜市や新居浜高専などが連携して開催します。

開催日 10月6日・7日
場所 新居浜工業高等専門学校
内容 企業の展示、新居浜高専の展示
ものづくり体験コーナーなど

第17回全国お手玉遊び大会

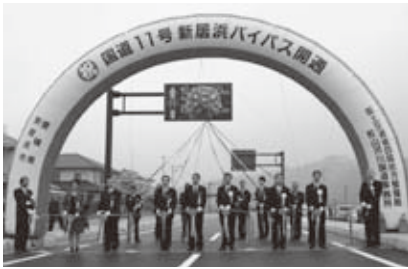
新居浜市で始まった日本のお手玉の会のお手玉遊びの活動については、市政施行70周年では、別子銅山や太鼓祭りと共に、新居浜が誇る歴史文化として記念誌が発行されるなど、お手玉遊び文化の発祥の地として全国的にも認知されています。

その日本のお手玉の会が設立20周年を迎えるにあたり、これまでの活動の集大成と更なる保存継承活動のため、全国大会が開催されます。なお、日時・場所・内容は7ページをご参照ください。

国道11号バイパス一部供用開始

平成24年2月25日に国道11号バイパスが一部供用開始されました。今回開通したのは、本郷から秋生間の約2.0kmで、2車線の暫定供用です。

今回の開通により、上部地区西部と中心市街地の渋滞緩和や交通事故の減少が期待されるとともに、中心市街地から西条インターチェンジへのアクセス向上が期待されます。



全線開通が待ち望まれます

変わりゆく風景

進む新居浜駅前土地区画整理事業

大詰めを迎えた駅前地区の整備ですが、今回は昨年6月1日から供用開始された正光寺山古墳公園について紹介します。

正光寺山古墳は、6世紀中頃から7世紀までに造られた古墳群で、発掘された出土品から、周辺の首長クラスの豪族が埋葬されていたとみられている貴重な地域です。

この発掘調査の結果を踏まえ、「古墳を生かした花見の出来る公園」を基本コンセプトとし、利用者の安全性を考慮した上で、可能な限りの墳丘等を復元しています。保存上の関係で公開できない石室について、大きさや雰囲気を感じ、見て触れることができます。

また、レプリカ(複製)がある学習の丘や見晴らし広場には、古墳の案内看板を設置し、学習の場として利用できるような整備されました。4〜5月に満開となるシバザクラを眺めながら、先人に思いをはせてはいかがでしょうか。



公園全景と満開のシバザクラ

新居浜に羊蹄丸がやってきた

羊蹄丸は昭和40年から昭和63年の青函トンネル完成までの青函連絡船として活躍し、東京お台場の「船の博物館」で展示・保存されていますが、えひめ東予シブプリサイク



多くの方でにぎわう羊蹄丸会場

本部だより

同窓会運営にご協力を!!!

盛夏の候、皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、樟樹会活動にご理解ご支援を賜りましてありがとうございます。

樟樹会では、総会・懇親会開催や、西高祭でチャリティーバザーを催したり、生徒さんへの多岐にわたる支援を行っています。年を重ねるごとに、行事や支援の内容もますます充実したものになっています。そこで同窓会運営の支えとなる、『運営会費』の納入によるご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりになりますが、皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



平成23年度総会・懇親会



西高祭チャリティーバザー

平成24年度 事業計画

月日	会合名	事業内容
3月26日	樟樹編集委員会	「樟樹」23号印刷所承認・概要相談
4月16日	会計監査	平成23年度会計帳簿類
4月23日	樟樹編集委員会	「樟樹」23号原稿依頼先および責任者決定
5月11日	第1回常任理事会	平成23年度事業報告 平成23年度会計決算報告 平成23年度会計監査報告 平成24年度役員改選 平成24年度事業計画案審議 平成24年度予算案審議 平成24年度総会・懇親会開催準備について その他
5月21日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月28日	第1回理事会	第1回常任理事会と同内容
6月4日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
6月11日	第2回常任理事会	平成24年度総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月11日	樟樹編集委員会	校正
6月18日	樟樹編集委員会	最終校正
6月21日	西高祭支援	模擬店（合格たこ焼き・合格焼きそば・フランクフルト・西高どら焼き・ラムネ等販売）
6月25日	第2回理事会	第2回常任理事会と同内容
7月15日		「樟樹」23号発行
8月4日	総会・懇親会	平成23年度事業報告 平成23年度会計決算報告 平成23年度会計監査報告 平成24年度役員改選 平成24年度事業計画案審議 平成24年度予算案審議 その他
1月下旬	第3回常任理事会	平成24年度の反省及び平成25年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月上旬	第3回理事会	第3回常任理事会と同内容
2月28日	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月1日	同窓会賞授与	卒業式にて授与（全日制 定時制 若干名）
備考	『東日本樟樹会』	5月27日（日曜）開催
	『近畿くすのき会』	6月30日（土曜）開催
	『松山樟樹会』	今年秋頃、総会開催予定

平成24年度 総会および懇親会のご案内

日時 平成24年8月4日(土)
総会 17時30分開会
懇親会 18時30分から
場所 リーガロイヤルホテル新居浜
 新居浜市前田町6-9
 TEL 0897-37-1121
チケット 3,000円(一般会員)
 1,500円(平成17年以降卒業会員)

当日も受付けます。
 ご要望に応じて、同期生・部活等の
 テーブルをご用意します。

平成23年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

	項目	23年度予算額	23年度決算額	備考	
収入の部	前年度繰越金	2,173,191	2,173,191		
	入会金(全日制)	2,828,100	2,795,100	848人(延べ人数)	
	入会金(定時制)	306,900	287,100	29人	
	雑収入	1,000	460	預金利息・貯金利子・会員名簿販売	
	運営会費	1,300,000	965,000	運営会費 196件(3,000円/1口) 賛助会費 23件(10,000円/1口)	
	収入合計	6,609,191	6,220,851		
支出の部	会合費	1,000,000	998,507	理事会・総会補助	
	慶弔費	50,000	45,000	饗別・香典	
	人件費	1,440,000	1,440,000	賃金	
	事務費	100,000	99,735		
	事業費	同窓会賞	30,000	15,000	全日制 2名 定時制 1名
		入会祝	600,000	609,840	全日制 275名 定時制 29名
		支部への補助金	100,000	30,000	各支部総会 お祝い金
		旅費	100,000	50,000	各支部総会 出席
		生徒への補助金	500,000	505,000	四国・全国大会補助
	その他の事業費	130,000	125,402	西高祭生徒会支援 高校野球広告料他	
通信費	300,000	246,923	電話代 切手・葉書代		
雑費・予備費	200,000	114,166	運営会費徴収に関する費用他		
次年度繰越金	2,059,191	1,941,278			
	支出合計	6,609,191	6,220,851		

還暦を迎えて



地域への想い

片上 政明（昭和46年卒）

はじめに

同期の友人から今回の寄稿を打診された。「樟樹」に載せるとのこと。「還暦を迎えて」というコーナーだ。躊躇もあったが「形にこだわらず自由に書けばよい」とのくつろいだお誘いだ。つい引き受けてしまった。さて？最初の言葉がなかなか出てこない・・・とパソコンに向かった。

還暦

今年還暦を迎えることは、年賀状を書くときに干支で理解していた。添え書きにそれらしくしたためたが実感はなく、ご挨拶程度のものであった。同期生の年賀状にも幾つか似たような言葉が入っていた。思いは何処も同じか？



11月には還暦。ギター抱えてフォークを歌えば気持ちは若い高校生のころと変わらない。そう思っても周りから見ると立派なおじさん？事実、1歳の孫がいる。

高校生時代

あまり鮮明な思い出はない。ただ、石鐘全校登山や運動会の仮装行列、応援合戦は良く覚えている。「ひとづきあい」が好きなので友人に恵まれた。試験勉強などの折には、幸か不幸か勉強部屋なるものが納屋にあったことから、友人が泊りがけで来ていた。将棋やおしゃべりなどがメインだか

ら結果は明白。彼らとは今も付き合いがある。もつとも、2年後半から大学受験にかけては、まじめに取り組んだ。

追加の思い出ひとつ。大衆食堂が校舎の東西にあった。昼休みには塀を乗り越えてラーメンやうどんを食したものだ。しかし、楽しいことはいつまでも続かず、体育のY先生の知るところとなった。現場を押しえられ、こつぴどく叱られた（ひよつとしたら殴られたかも知れない）。今や笑い話。社会人として

大学3年のとき、入院したこともあって卒業後は新居浜市と愛媛県の臨時職員を経験。住友系企業の営業職を経て1991年から愛媛県・新居浜市・西条市の官民が設立した財団法人東予産業創造センターに勤務、現在に至っている。「新産業の創造による地域経済の発展・活性化」をミッションとする企業応援団だ。

東予は、四国有数のものづくり企業の集積地。中でも新居浜市は住友を頂点とする企業城下町。財団の目指すところは脱下請による「新産業の創造」だ。ベンチャー企業をインキュベートルームで育てつつ既存企業の新事業展開を支援。

しかし、当時は理解されず一苦勞。企業を限なくまわり得意わざや人材を把握、これをベースに地に足の着いた活動を始めた。この時、これまでの職歴で得た経験や人的ネットワークが本当に役立った。小中学生、高校・高専生、社会人までの幅広い人材の育成。地道に続けてきた小中

学生ものづくり体験教室や高専生等のインターシップなどが評価され経済産業省から「ものづくり日本大賞青少年支援の部」優秀賞を頂いた。

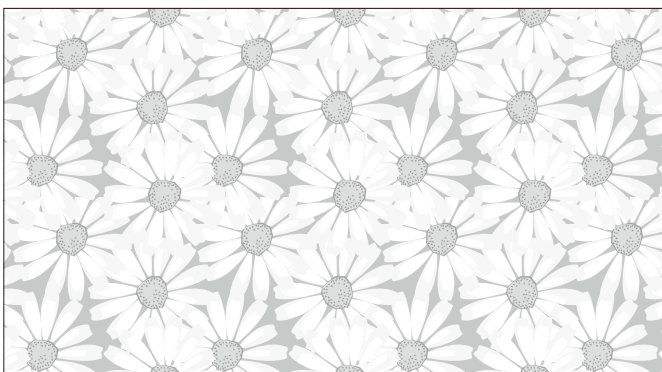
新技術開発では産学官の連携で課題解決を支援。新たな受注開拓に対しては大型展示会でマッチングを支援。職員自ら営業し、受注成果も出てきた。

20年あまりが流れ、グローバル化は地域にも波及する。中国や韓国をはじめとする新興国は成長し地域産業の柱である鉄工業にとってコスト・品質面で脅威となった。大手製造業は海外展開を加速する。

地域が一体となってグローバル化人材を育成し次世代技術に取組む必要がある。新たな共存共栄が求められる。「グローバル」ということばがある。地球規模 (Global) な視野で考え、地域 (Local) 視点で行動することだ。今、このことばを意識し地域の活性化に貢献しなければならぬ。もちろん現役を離れても・・・

この地に生まれこの地を愛し、3人の子宝にも恵まれた。長男は大阪に住み海外へも出る。次男・三男は、この地に住んでいる。おわりに

新居浜市内の同期生とは何回か会う機会がある。先ごろ集まった折、還暦を記念する同期会の話が上がった。アルコール入りだから当然盛りあがる。リタイアを迎えた旧友との再会が始まる。利害もなくフラットなポジションが心地よい。



同期
会
俾
り

昭和36年卒 同期会

「古稀の祝い」

村上 徹・水尾富子（昭和36年卒）

私達、昭和35年度卒の同期会を平成23年10月16日、松山道後、茶玻璃にて開催致しました。35名の参加者でした。

年一回の開催で、新居浜、東京、京都、箱根、奈良の各地、幹事のお世話で集まりました。年々年は重ねてきましたが会う度、昔のなつかしい面影と親しみが増し、よそよそしさも遠慮もなく、笑い声のあふれる会



場でした。いつまでも続けたいと思っています。その他、元気な姿、なつかしい顔、再会の感激、楽しい同期会、これからもよろしく等の言葉を残し、来年の東京での再会を約束して、市内観光、砥部焼体験、ゴルフ、新居浜太鼓台見物へと出発しました。

出席者の感想

「大仏の次はぼっちゃん いい湯だな」

和子

「思い出多き道後で昔の仲間と酒を飲む」

隆次

「道後の湯 古稀の仲間と童心に」

公宣

「同期会 気持ちはいつも青春時代」

雄三

「湯に浮ぶ タイムスリップ半世紀」

昭芳

「道後の湯 あの娘もこの男も なつかしや」

英明

「古稀迎え 道後の出で湯 満ちあふれ 友と語りて一夜あけ」

忍

「秋晴や 同期の集ふ城下町」

桂子

「石手寺のおかげで集う旧友と 古稀の青春 ありがとう」

明子

昭和40年卒 同期会

「青春時代にテレポート」

小野宗三（昭和40年卒）

昨年10月16日新居浜祭りの初日、太鼓の音に誘われるように東は関東、西は九州からリーガロイヤルホテルに集まったのは、恩師関浩二、越智寛、津村義文の先生方を含め71名、先生方の元気なご挨拶でスタートし賑やかな5年毎の同期会となりました。

卒業して47年が過ぎましたが、今回初参加の方は、開催前の数時間を利用して高校

生活を送った思い出の場所を散策し、環境の激変に驚いていましたが、懐かしい顔を確認するとすぐに青春時代にテレポートーション、笑顔が弾ける各テーブルとなり大いに盛り上がりました。

あつという間の2時間余りが経ち、次回再会は5年先ではなく是非3年以内にと希望の声も多い中、無事閉会しました。その後は、それぞれのグループで近くの

1979年卒 大同期会
「アラフィー達に加齢なる集い」

幹事会代表 倉本昌世

（旧姓：伊東・昭和49年卒）

当日の再会の日を持たずに旅だった9名の友の御霊に黙禱し幕を開けた同期会。

リーガロイヤルホテル新居浜には、お忙しい中、当時担任だった続木先生、近藤先生、高山先生、松垣先生がお越しくくださり、懐かしさもひとしおです。

くじ引きをして着席したテーブルには、卒業アルバムクラスの写真が置かれていました。

名札や写真を見ずとも名前前の出てくる顔。先生かと思えるほど見事に変化した顔（頭？）。心ときめかせた、あの人の顔、顔、顔。それぞれに、色々あった33年の時を越え、一瞬にして西高生に戻り、そこかしこに会話の花が咲き乱れます。

食事をいただくのも忘れ、話題に夢中になつていたとはいえ、先生方のご挨拶に耳を傾けていなかった人が少なからず居たのは残念でしたし、先生方にも申し訳なく思いました。

退職後も教育に携わり活躍なさっている先生方のお姿に、卒業して尚、教えられた気がします。

先生方を囲み卒業アルバムさながら、全員で上を向いて記念撮影した後、ホテル内



のバーへと場所を移しての2次会。それでも話し足りない人(呑み足りない人?)は、「英国亭」での3次会と、夜が更けるのも忘れて楽しいひと時を過ごしました。

誰が幹事長でも幹事でもなく、幹事会を組織して全員で準備を進めてきた今回の同期会。

今回、参加できなかった人たちがや連絡ができなかった人たちにも、もれなく連絡ができ、「え?!呼ばれてない!」と後から残念がる人がいないよう、次回の同期会まで元気で頑張りたいと思います!

今回は、2014年に開催予定です。



近畿くすのき会

第16回近畿くすのき会総会・懇親会

第16回近畿くすのき会総会・懇親会は、平成23年7月2日(土) 11時30分から大阪弁護士会館で開催しました。この場所は前年の総会も開いたところで、見晴らしが良く好評だった所です。樟樹会から畑田会長、母校から横山校長をお招きし、また母校の恩師寺岡正夫先生におこし頂きました。

総会では昭和62年当会創立以来会長を勤められた加藤会長以下の幹部役員を、昭和41年卒の人が主体の人達に交代する案が承認されました。新しい体制は名誉会長が今までの加藤会長、新会長に村上健次さん、幹事



支部だより

東日本樟樹会

第4回東日本樟樹会総会・懇親会

東日本樟樹会の第4回総会と懇親会は、5月27日(日) 12:00から、品川区西五反田の「ホテルゆうぼう」と、重陽の間で開催されました。

出席者は、来賓として招待の畑田同窓会会長と藤田校長他74名で、昭和27年卒業の方から平成24年の方まで幅広い年次の同窓生が出席しました。

総会は、22・23年度の事業報告と役員任期満了に伴う改選が行われ、会長(井上)、副会長(津田、大澤)、幹事長(久門)が再任、また、副幹事長、幹事が会長から指名され、

長に宮崎素伸さんと言う布陣です。

お呼びした寺岡先生には「第二の人生を竹芸に生きる」という題で、ご趣味の竹細工を主体にしたお話しをして貰いました。

懇親会では校歌を歌い、恒例となった抽選

会を賑やかに行いました。また寺岡先生には、お持ちになったご自慢のハーモニカの演奏を披露して頂きました。

懇親会終了後、これも前年同様同じフロアの別の部屋も使った二次会を継続して行い、4時ごろまで楽しい時間を過ごしました。

記：北脇重康



全役員は満場一致で承認されました。

懇親会では、新

居浜市と母校のスライドショー、ご当地クイズ等が行われ、出席者一同、

暫し故郷を思い出し、懐かしいひと時を過ごしました。

次回は5周年記念総会として、来

年5月の最終日曜日(2013年5月26日)に開催の予定です。



記：大澤明文

編集後記

あの大震災から1年4ヶ月、行方不明者、身元不明者、原発事故、震災がれき等々、復興はまだまだのように思います。一日も早い収束を祈るばかりです。

さて、本誌は今号よりA4判とし、新たなスタートを切る思いです。編集委員に、在校時には新聞部だった鈴木さんが加わってくれ、平均年齢もグツと若くなりました。今後に期待しています。

編集委員の方々のお力で、比類稀なるすばらしい会報に仕上がったと自画自賛していますが、読者の皆さんの忌憚のないご意見をお聞かせください。

また、2・3ページにふさわしい同窓生の推薦、広告掲載のお申し出等もお願いいたします。

委員長 近藤 博司(昭44普)
 委員 世良 賢克(昭26普) 井川 美穂(昭62普)
 武田 信之(昭28普) 越智 孝司(平2普)
 近藤 司(昭42普) 佐藤 尚史(平8普)
 畑田 雅敏(昭44普) 日野 愛子(平12普)
 伏見 紀子(昭44普) 吉村 新平(平15普)
 石川美千子(昭47普) 鈴木 雅大(平16普)
 安藤 寛和(昭58普)

発行所

樟樹会

T79210024

新居浜市宮西町4-46

TEL 0897-3214331

FAX 0897-3214331

発行者

畑田 雅敏

編集者

近藤 博司

印刷所

株式会社サラト

発行日

平成24年7月15日

表紙撮影：大久保直幸氏(昭和44年卒) 大久保フォトス

